



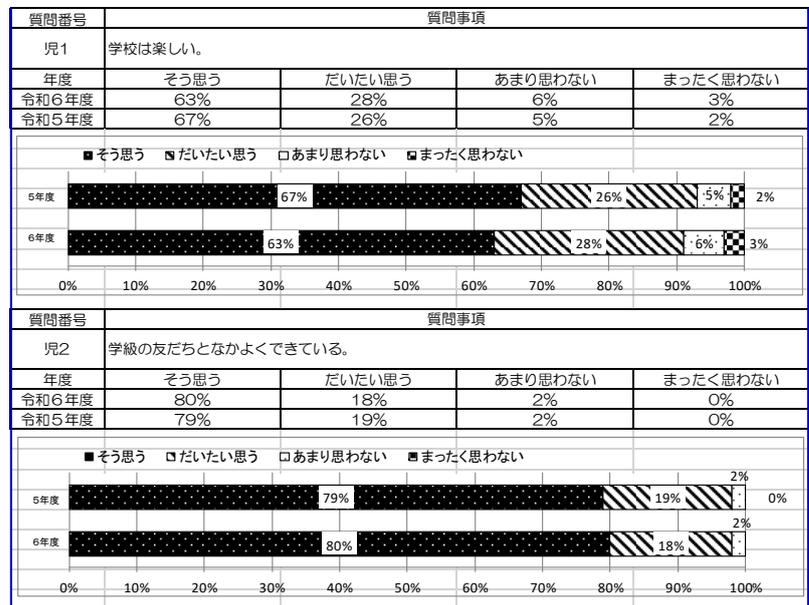
校訓「心豊かな たくましい三条っ子」

## 教育活動に関するアンケートより

昨年末、教育活動に関するアンケートを実施させていただきました。学校教育目標を「『心豊かな、たくましい三条っ子の育成と保護者や地域から信頼される学校をめざす』として活動を進めてきました。今回の児童のアンケート結果を考察し、来年度の学校運営や教育活動の参考にさせていただきたいと考えています。今後とも家庭・地域・学校が連携し、児童の健やかな成長を図っていきたいと思います。本校の教育活動に引き続きご理解とご支援をよろしくお願ひします。

### 学校生活全般について

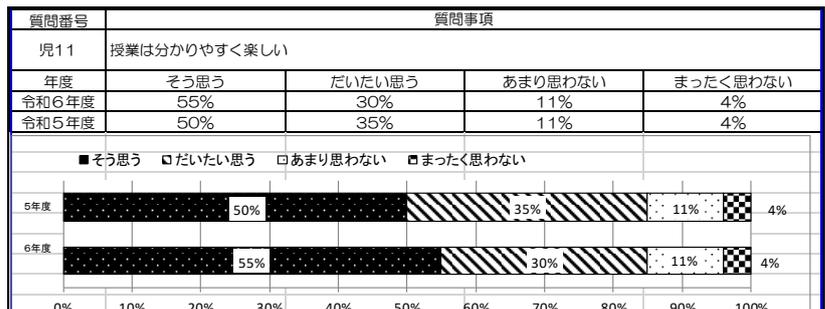
「学校は楽しい」「学級の友達となかよくできている」と回答する児童の割合は、90%を超えています。また、「学校は楽しい」と回答する児童の割合は、昨年度よりやや下がっています。両回答ともそうでもないと回答する児童も数%います。それらの児童にも目を向け教育活動を進めていきたいと考えています。個々が目標をもって生活し、集団生活の良さを感じられるように、対話やQUの意識調査などを活用した児童理解、支援を実施していきたいと考えています。そして、学級・学年での所属観や存在感を味わわせ、自己肯定感を高めていきます。また、子どもたちは、集団生活における仲間との関わりを通して、相互理解や共感的な人間関係作りを学びます。時には、他者とのトラブルもありますが、重大ないじめに発展しないよう、家庭の理解や協力を得ながら、明るく元気に、笑顔で生活できるよう学校にしていきたいと思ひます。



### 学習面について

「授業は分かりやすく楽しい」と回答する児童の割合は、85%以上で、「そう思う」と回答する児童が増えました。今後も、「わかる・できる・身につく・学び合う」授業になるように、私たち教員は研修に取り組んでまいります。

今年度は、「主体的・対話的で深い学び」の視点のうち、特に対話を意識した授業づくりの研修に力を入れ、子どもたちにとって分かりやす



い授業になるよう努めてきました。対話を通して、周りの人たちと共に考え、学び、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業に努めました。さらに、自分の考えを発表する場面を多く設定し、多面的・多角的な思考ができる児童を育てていきたいと考えます。各教科等を通じて得た力が将来にもつながるように、授業をよりよく改善していき、子どもたちの力を育むように努めてまいります。

## 心情面について

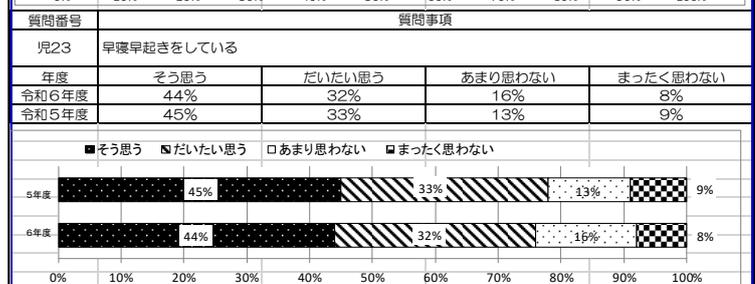
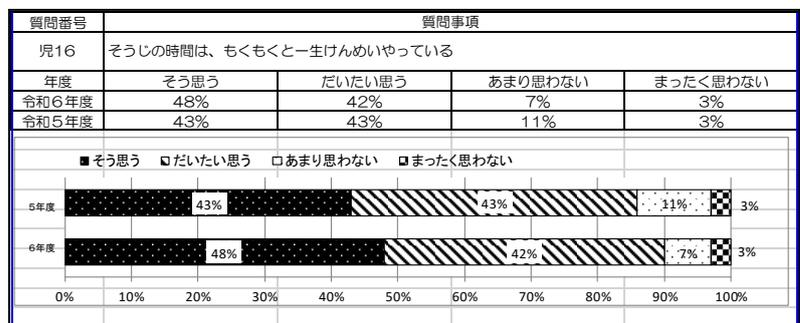
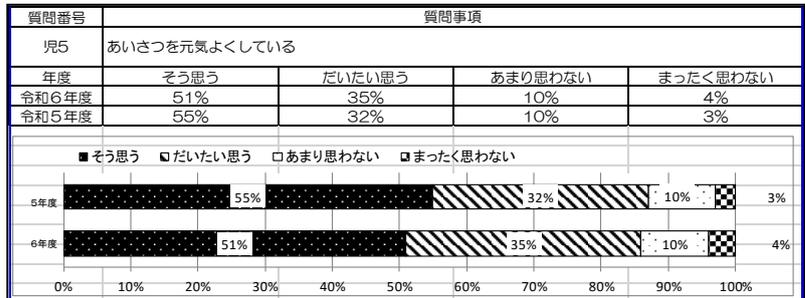
「あいさつを元気よくしている」と回答する児童の割合は、86%でした。あいさつは、人と人をつなぐ大きなコミュニケーションの一つという意識をもって、今後も率先して挨拶していきたいと思えます。特に、「自分から先に」ということを意識させたいと思えます。家庭での呼びかけ、励ましをよろしくお願いします。

「掃除の時間は一生懸命やっている」と回答する児童の割合は、90%でした。自分や自分たちが使う場を片付けたり、綺麗な環境にしていくことは、周りの人のことを思いやり、心を清めたりすることにもつながります。

あいさつや掃除は、大人になっても、人と仲良くしたり、信頼を得たりする上で大切な要素の一つです。小学校6年間で、ぜひ身に付け、将来に渡って愛される人になるように家庭や地域でも支えていただきますようお願いいたします。また、学校においても、児童会活動、地域清掃活動、異学年交流活動、学級活動、道徳の授業等を通して、心豊かな三条っ子の育成に努めていきます。

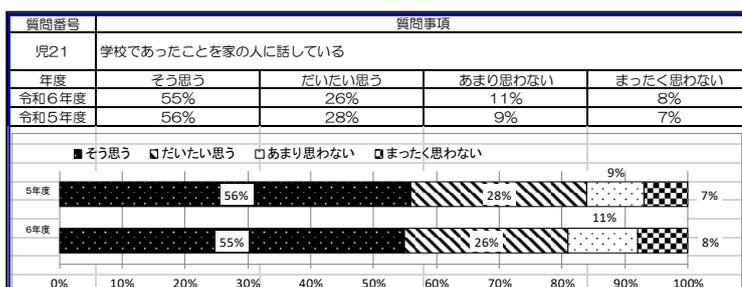
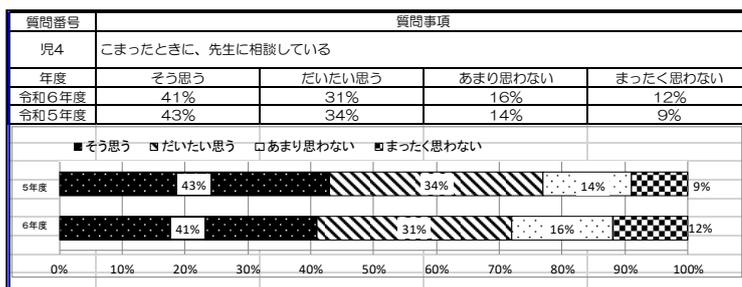
## 健康面について

「毎日、朝ごはんを食べて学校に通学している」と回答する児童の割合は96%で、「早寝早起きをしている」と回答する児童の割合は76%でした。家庭において生活習慣を身に付けさせるようにご協力いただき、ありがとうございます。睡眠時間が十分で朝食をとっている児童に比べ、そうでない児童は、学校で不調を訴えることもあります。夜更かしをして朝の目覚めがよくないことが多い家庭については、ぜひ改善をお願いしたいと思います。学校においては、担任による学級指導はもちろんのこと、講師を招いて学校保健委員会を開催したり、養護教諭や栄養教諭になる保健指導、食育指導を今後も継続して行ったりしていきます。元気いっぱい、学校に登校し、充実した生活を送れるように、今後ともよろしくお願いします。



## 信頼される学校づくりについて

「こまったときに、先生に相談している」という項目は、「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた割合が72%でした。子どもたちの困りごとは、学校生活、友達関係、家庭生活と多岐に渡ってあると思います。子どもたち自身で解決し生活力を高められることもありますが、できないこともあります。「学校であったことを家の人に話している」と回答する児童の割合は81%でした。児童・家庭・学校で改善策を探っていくるように、ぜひ協力をお願いしたいと思います。



最後になりますが、来年度も一人一人の児童が「心豊かな たくましい三条っ子」になるよう全職員で努力したいと考えています。引き続き保護者や地域の皆さまのご支援ご協力よろしく申し上げます。